

「“現代音楽”とは何か？」

川島素晴 × 近藤譲 × 沼野雄司

「現代音楽」という言葉は、こんにち、或る種類の一群の音楽(その範囲は非常に漠然としたものですが)の呼称として用いられています。では、それらの音楽が一括りにそう呼ばれる理由はどこにあるのでしょうか?—音楽様式や作曲技法でしょうか? 音楽の生産と受容にかかわる文化社会的制度でしょうか? 歴史性に於いてでしょうか? 美学的なイデオロギーの問題でしょうか? 或はまた、他の理由によってでしょうか? この公開討論では、「現代音楽」の現場に深くかかわっている音楽学者と作曲家が、それぞれの立場から、こんにちの音楽文化における「現代音楽」の意義と現状について、率直に語り、議論を交わします。(文責:近藤譲)

【日時】 2015年 11月21日 (土) 14:00 開始 (開場 13:30)

【会場】 BUNCADEMY (東急東横線 学芸大学駅から徒歩1分)

〒152-0004 東京都目黒区鷹番3-1-3 リエール鷹番303号

【出演者】 (五十音順, 敬称略)

川島素晴 (作曲家/国立音楽大学 准教授)

近藤 譲 (作曲家/お茶の水女子大学名誉教授) *兼 司会

沼野雄司 (音楽学者/桐朋学園大学教授)

【受講料】 一般 2,000円 / 学生 1,500円 (先着20名)

【ご予約・お問い合わせ】 info@buncademy.co.jp

～出演者プロフィール～

◆ 川島 素晴（かわしま もとはる）

1972年東京生れ。東京芸術大学、及び同大学院修了、作曲を近藤譲、松下功の各氏に師事。秋吉台国際作曲賞（1992）、ダルムシュタット・クラークニヒシュタイン音楽賞（1996）、芥川作曲賞（1997）、中島健蔵音楽賞（2009）等を受賞。1994年以来「演じる音楽」をモットーに創作活動を行っている。いずみシンフォニエッタ大阪プログラムアドバイザー等、現代音楽の企画・演奏・執筆活動も多い。国立音楽大学准教授、東京音楽大学、及び尚美学園大学講師。日本作曲家協議会理事。

◆ 近藤 譲（こんどう じょう）

1947年東京生まれ。東京藝術大学で作曲を学び、在学中からその作品が注目を浴びた。1970年代初頭に、自ら「線の音楽」と名づけた独特の作曲方法論を提唱し、以後国際的に活躍。欧米の多くの主要機関や音楽祭から委嘱を受け、特集演奏会が組まれている。ほぼ全作品の楽譜がイギリスのUYMPから出版され、『オリエント・オリエンテーション』『表面・奥行き・色彩』（以上コジマ録音）をはじめCD録音も数多い。2012年、アメリカ芸術・文学アカデミーの外国人名誉会員に選ばれた。国内外の多くの大学で教鞭をとり、講演をおこなっている。お茶の水女子大学名誉教授。主な著書に、『線の音楽』『聴く人（homo audiens）』（アルテスパブリッシング）、『音を投げる』『<音楽>という謎』（以上春秋社）、『耳の思考』（青土社）など。

◆ 沼野 雄司（ぬまの ゆうじ）

東京芸術大学博士後期課程修了。博士（音楽学）。主な研究領域は20～21世紀音楽。主な著書に『リゲティ、ベリオ、ブーレーズ 前衛の終焉と現代音楽の未来』（音楽之友社、2005年）、『光の雅歌 西村朗の音楽』（春秋社、2005年、共著）、『日本戦後音楽史上・下』（平凡社、2007年、共著）など。国内外での学会発表のほか、音楽批評、演奏会・CDライナー解説の執筆、音楽祭の企画・監修、コンクールの審査員、オーケストラや演奏活動の公的助成審査などに幅広く従事。2008年から2009年にかけてハーヴァード大学客員研究員。現在、桐朋学園大学教授（音楽学）。